

2012 年(平成 24 年) 2 月 22 日

## 第 4 回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 受賞者の決定および表彰式開催のお知らせ

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)では、「第 4 回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」の選考を行ない、平成 23 年度の受賞者について下記のとおり決定しました。

同賞は、スポーツ振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物を表彰する制度です。平成 20 年度に表彰制度を創設し、今回で 4 回目の実施となります。

なお、「第 4 回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 表彰式」を、2012 年 3 月 18 日(日)にヤマハリゾートつま恋(静岡県掛川市)にて開催します。

記

### 【受賞者について】

#### 第 4 回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 功労賞

◇受賞者 : 岸本 健 (スポーツ写真家/株式会社フォート・キシモト 代表取締役社長)

◇選考理由 : スポーツ写真家の草分けとして、スポーツ報道の機会拡大に貢献  
～50 年間で約 800 万点のスポーツの現場を記録～

◇受賞者 : 水谷 章人 (スポーツ写真家/一般社団法人日本スポーツプレス協会 会長)

◇選考理由 : 独創的な表現でスポーツの魅力を伝え、スポーツ写真家の育成・環境整備にも尽力  
～スポーツグラフィックの新たな境地を拓く～

#### 第 4 回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 奨励賞

◇受賞者 : 該当なし

#### ※選考方法

2011 年 10 月 1 日～11 月 15 日の期間、大学、競技団体、メディア、ジャーナリスト等による候補者の推薦を公募し、2 回の選考委員会を経て決定。

### 【表彰式について】

#### 第 4 回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 表彰式

◆日時 : 2012 年 3 月 18 日(日) 午前 9 時より(受付:午前 8 時 30 分より)

◆場所 : ヤマハリゾート つま恋 (静岡県掛川市満水 2000)

■ この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 (YMFS)

担当・河邊 〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500 番地

Tel. 0538-32-9827 Fax. 0538-32-1112 <http://www.ymfs.jp>

■ ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞について

「ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」は、スポーツ界において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した人物を表彰するものです。スポーツ振興において「縁の下の力持ち」として活躍する(した)チャレンジスピリットあふれる受賞者の実像を通じ、挑戦することの尊さを広く社会に伝播することを主な目的としています。競技者をはじめ、指導者や研究者、また普及・支援に携わる人々やジャーナリストなど、さまざまな分野において成果を上げた人物を対象とし、合わせて目標に向かって自分自身を磨き上げるそのプロセスを重視して、その努力と成果に敬意を表して表彰を行います。

■ スポーツチャレンジ賞「功労賞」と「奨励賞」について

「ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞」は、現在のスポーツ普及・振興の礎となった長年もしくは過去のチャレンジに対する「功労賞」と、表彰年度ごとに世界トップレベルの成果を生み、今後さらなる成長を期待される短・中期的なチャレンジに対する「奨励賞」の 2 部門があります。いずれの賞においても、これまで注目を浴びることが少なかったものの、本来は高く評価されるにふさわしいチャレンジを表彰します。

|                | 功労賞                                                                                                                                                 | 奨励賞                                                                                                                                         |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 対象となる<br>チャレンジ | 長年にわたるスポーツ振興への貢献や過去の先駆<br>的な実績を誇るチャレンジ                                                                                                              | 今後のスポーツ振興に大きな影響力が期待される、そ<br>の年、極めて高い成果を上げたチャレンジ                                                                                             |
| 表彰対象者          | すでに優れた成果を上げ、功を成した人物                                                                                                                                 | その年、高い成果を上げ、今後さらなる成長が期待され<br>る人物                                                                                                            |
| 評価のポイント        | 長年もしくは過去に行われ、年数を経てから高い成<br>果と認められた尊敬に値する礎的、先駆的なチャレ<br>ンジであること。たとえば指導者、研究者、審判、ジ<br>ャーナリストなどによる、その競技やスポーツ全体<br>の底上げに貢献、もしくは海外などで裾野拡大に尽<br>力したチャレンジなど。 | 短期的、もしくは中期的に行われ、その年に高い評価を<br>受けた賞賛に値するチャレンジであること。たとえば指<br>導者、研究者、トレーナー、サポートメンバー、審判、ジ<br>ャーナリストなどによる世界レベルの成果を発揮するに<br>あたり、重要な役割を果たしたチャレンジなど。 |
| 賞金／副賞          | 賞金 100 万円(チームの場合は 200 万円) 賞状・メダル / 副賞                                                                                                               |                                                                                                                                             |

ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 選考委員

選考委員長 浅見俊雄 東京大学名誉教授・日本体育大学名誉教授

西田善夫 NHK 元解説委員・スポーツアナリスト  
福永哲夫 鹿屋体育大学学長・東京大学名誉教授  
伊坂忠夫 立命館大学スポーツ健康科学部教授  
景山一郎 日本大学生産工学部教授  
草加浩平 東京大学大学院工学系研究科特任教授  
篠原菊紀 諏訪東京理科大学共通教育センター教授  
綿貫茂喜 九州大学大学院芸術工学研究院教授  
衛藤隆 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会  
日本子ども家庭総合研究所副所長・東京大学名誉教授  
遠藤保子 立命館大学産業社会学部教授  
川上泰雄 早稲田大学スポーツ科学学術院教授  
小西由里子 国際武道大学体育学部教授

定本朋子 日本女子体育大学大学院研究科長  
基礎体力研究所所長・教授  
田原淳子 国士舘大学体育学部教授  
山本裕二 名古屋大学総合保健体育科学センター教授  
ヨコゼッターランド 元バレーボール選手・スポーツキャスター  
今給黎教子 海洋スポーツインストラクター・冒険家  
村田亙 ラグビー7 人制日本代表監督  
大坪豊生 ヤマハ発動機株式会社取締役  
鈴木正人 ヤマハモーターエレクトロニクス株式会社取締役会長  
岸川善次郎 ヤマハ発動機スポーツ振興財団理事・前事務局長

(敬称略)

第4回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 功労賞

## スポーツ写真家の草分けとして、 スポーツ報道の機会拡大に貢献

～ 50年間で約800万点のスポーツの現場を記録 ～

岸本 健<sup>きしもと けん</sup> スポーツ写真家／株式会社フォート・キシモト 代表取締役社長 1938年生・北海道出身

### ■選考のポイントとなったチャレンジの軌跡

岸本氏がスポーツ写真の撮影を開始した1958年当時、スポーツの大会や試合の撮影は主に新聞社から派遣された写真部員によって行われていた。北海道の高校を卒業後、銀座松屋の写真館で肖像写真撮影の修行をしながら日本体育協会の事業活動に関わる撮影を開始した岸本氏は、機材費・材料費・活動費などを自力で捻出しながらさまざまなスポーツの現場に足を運ぶことで実績と信頼、撮影技術を積み重ね、1961年に日本で初めてのスポーツ撮影を専門とするフリーランスカメラマンとして独立、その先駆者となった。

東京オリンピックでは、写真家志望の学生を中心に編成した独自のチームで組織的な取材・撮影を成功させ、1966年には日本初のスポーツ専門フォトエージェンシー(株)フォート・キシモトを設立。以来、同社では岸本氏を中心に、東京大会から数えて夏冬オリンピック24大会、サッカーワールドカップは1970年メキシコ大会を皮切りに11大会連続で撮影。その一方、市民・健康スポーツ、ジュニア・ユース年代のスポーツ、障がい者スポーツなどの撮影にも幅広く取り組み、1950年代後半から半世紀以上にわたり継続的に撮影・整理・アーカイブしてきたスポーツ関連の写真はおよそ800万点にも及ぶ。こうしてストックされた貴重な写真は、スポーツ報道はもちろん、スポーツ文化の醸成や振興、またスポーツの技術向上、さらに教育や研究の現場などで広く役立てられている。また、スポーツの魅力を伝える新たな手法として、スポーツ写真に語りや文章、音楽等を加えたコンテンツ「マルチスライド」を構想・開発中。



1965年国内水泳競技会(バタフライ)

【略歴】 1950年代後半に若松不二夫氏のもとでスポーツ写真の撮影を開始。1966年には日本初のスポーツ専門フォトエージェンシー(株)フォート・キシモトを設立し、収蔵点数で世界最大級のスポーツ写真ライブラリーに育て上げた。主な受賞歴は、モスクワオリンピック国際ポスターコンクールでの金賞受賞。日本選手団が不参加となったこの大会で、当時「日本唯一の金メダリスト」として注目を集めた。

第4回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 功労賞

## 独創的な表現でスポーツの魅力を伝え、 スポーツ写真家の育成・環境整備にも尽力

～ スポーツグラフィックの新たな境地を拓く ～

みずたに あき と

**水谷 章人** スポーツ写真家／一般社団法人日本スポーツプレス協会 会長 1940 年生・長野県出身

### ■選考のポイントとなったチャレンジの軌跡

写真学校を卒業したのち山岳写真家を志した水谷氏は、雪山の点景の一つとしてスキーと出会う。元オリンピック選手であった杉山進氏らによる極限の滑りに魅せられた水谷氏は、若き日の 3 年間、志賀高原に開講した杉山進スキースクールでプロスキーヤーやスクール生の撮影に取り組み、のちに「水谷流」と呼ばれる独創的な作風と撮影技術の基礎を築いた。これらの作品を 1970 年に開いた個展「極限に挑むスキー」で発表すると、被写体に肉薄したクローズアップの撮影術が大きな話題を集め、これをきっかけに 1975 年毎日グラフ誌(毎日新聞社)で「パワー&スピリッツ」が、続いて 1980 年には Number 誌(文藝春秋)でも「THE SCENE(ザ・シーン)」の連載がスタートした。いずれの作品もさまざまなスポーツを題材にしながら、大胆な構図でアスリートの圧倒的な美しさや力強さ、時には脆さまでを一瞬のクローズアップで切り抜くことでスポーツ写真の新境地を示し、特に「THE SCENE」はその後のスポーツ写真の表現に大きな影響を与えるとともに、スポーツ写真家を志す若者を大いに刺激したとされている。

日本を代表するスポーツ写真家となった 1993 年には、日本スポーツプレス協会の会長に就任。写真家やジャーナリストの権利を守るための諸活動や活躍のための環境整備を行いながら、2001 年からは JCII スポーツ写真プロ育成セミナー「水谷塾」を主宰し、後進の育成にもつとめている。現在では、同セミナーの修了生約 50 人のうち約半数がプロスポーツカメラマンとして活躍している。

日本を代表するスポーツ写真家となった 1993 年には、日本スポーツプレス協会の会長に就任。写真家やジャーナリストの権利を守るための諸活動や活躍のための環境整備を行いながら、2001 年からは JCII スポーツ写真プロ育成セミナー「水谷塾」を主宰し、後進の育成にもつとめている。現在では、同セミナーの修了生約 50 人のうち約半数がプロスポーツカメラマンとして活躍している。

【略歴】 1965 年東京総合写真専門学校を卒業。1970 年に富士フォトサロンで個展「限界に挑むスキー」を開き、これをきっかけにさまざまなスポーツの一瞬をクローズアップで表現する作品を多数の雑誌、写真集、写真展等で発表。1993 年に日本スポーツプレス協会会長に就任。2001 年からは JCII スポーツ写真プロ育成セミナー「水谷塾」を主宰。主な受賞歴に講談社出版文化賞(1981 年)、日本写真協会賞作家賞(2007 年)など。



1982 年日本選手権水泳競技大会(飛び込み／馬淵よしの選手)  
Number 誌「THE SCENE」より

